

- *教会の一致に関してピリピの教会も問題を抱えていたようであった。4章にあるように、二人の婦人が仲違いをしていたことが教会全体に悪い影響を及ぼしていた。パウロは教会の一致を説いた。それは教会が弱体化するからであるが、具体的には「共に闘う」ためであった。
- *外なる闘いは、異教徒や異端や偽教師が常に教会に入り込んで来て、間違っただけを吹き込んでいた。
「あなたがたは霊を一つにしてしっかりと立ち、心を一つにして福音の信仰のために、ともに奮闘しており、また、どんなことがあっても、反対者たちに驚かされることはない。」（ピリピ1：27～28）パウロは励ました。キリストの福音に反対する者に対して戦わなければならないのは今も昔も同じである。その時、ひとりの力は弱い、同じ信仰、同じ思いを持った者が一つになれば百倍の力が生まれる。
- *内なる闘いもある。信仰者とはいえ、罪人であり、苦しむことも多い。自分の中に潜む不信仰や罪。悪の誘惑も常にある。信仰生活を続けるのは簡単なことではない。苦しみとの闘いの連続であるともいえる。「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。」（1：29）闘いに勝利するには、一人で悩むのではなく、信仰の友が一致して祈り、助け合うことが必要である。
- *どうすれば一致できるか。「もしキリストにあって励ましがあり、愛の慰めがあり、御霊の交わりがあり、愛情とあわれみがあるなら、」（ピリピ2：1）一致することができるはずである、という。この部分は毎週「父、子、聖霊の祝福があるように」と祈る礼拝の最後の祝祷の内容である。共に一致して礼拝をささげた者には主の祝福がとこしえにある、と約束されている。私たちは、時々他人の考えや行動を受け入れられないことがある。しかし、神はすべての人を造り、一人一人を平等に愛しておられることに心を留めることができたとき、一致の窓口が見えてくる。キリストをかしらとする教会であるからこそ一致ができるはずである。